

高校 1 年 現代社会

実践名：高度情報社会に生きる【情報化の光と影】

高等学校第 1 学年 現代社会学習指導案

日 時：平成 23 年 月 日 ()

授業者：教諭 小川泰弘

1 単元名 高度情報社会に生きる【情報化の光と影】

2 単元について

(1) 単元のねらい

近年の通信技術の急速な発達にともない、私たちは「いつでも」「どこでも」「誰とでも」つながれるツールを手にするようになった。それは、たとえば私たちがふだん目にする機会のない生産や流通といった産業経済分野においては、「いつでもスーパーに欲しい品物がある」などの、私たちの生活の「あたりまえ」を可能にした。また身近なところでは「メール」「ネット」「ケータイ」といったツールはただの通信技術にとどまらない多様な機能を有するようになり、それらなしでは日常生活が成り立たないほどに、私たちはその便利さに依存しつつある。しかし、これらの技術が急速に進行した一方で、私たち人間にはそれを操るだけの十分な技量や哲学が備わっていない。「便利である」「すぐにつながる」「何でも手に入る」という一見万能に見えるこれらの情報技術の「本質」や、あるいはこれらの技術を通して得られた情報そのものの「本質」を見抜けずに、湯水のごとくこれらの技術や情報を浪費し、あるいは情報に飲まれている現状がある。ネットワークを悪用した犯罪、トラブル、いじめといった事象があとを絶たないのは、このような現状を反映したものであると言える。本講では、高度情報社会の進行の経緯をたどりながら、「情報化」「情報ツール」「情報そのもの」の「本質」すなわち「光と影」を解き明かすことで、高度情報社会における生き方を考え、情報モラルの実践力を磨く材料を提供したい。

(2) 系統について

この単元は、現代社会を生きる上での諸課題をとりあげた一連のシリーズにおける項目の 1 つである。「高度情報社会」のほかには「大衆社会」「少子高齢化」「男女共同参画社会」「国際化」があり、これからの時代を生きる高校生にとっては現実に価値判断を求められる場面の多いテーマである。机上の知識・情報にとどまらず、現実の社会で明確な基準にもとづいた価値判断ができるよう、思考力や実践力を育てられる指導に努めたい。

(3) 生徒の実態について

本校では、携帯電話は「所持禁止」の指導がなされている。一方、匿名の「いじめアンケート」調査においては、本校生徒の携帯電話の所持率は、一昨年度 61%、昨年度 71% であった。また昨年度の「学校非公式サイト対策調査」によれば、「個人情報の流布」件数の全校生徒に対する比率は 5% 強にのぼる。これまでの指導事例からは、厳しい規定がある一方で使用方法には軽率なものが目立つ。本講で指導を行う 1 年生は、使用を始めてからの日が浅く、情報機器の技術的な操作には早く習熟するものの、情報機器や情報そのもののもつ性

質には熟知しておらず、その社会的な影響を想像するまでには至っていない。「所持禁止」というルールは踏まえつつも、実態に即した情報モラルの学習に努めたい。

(4) 指導にあたって

このテーマは、生徒にとってきわめて身近な話題であるため、関心は高いと思われる。その一方で、携帯電話の所持は禁止されており、ルールと実態とが齟齬をきたしている微妙なトピックでもある。そのため、発問や意見表明の場においては、生徒の素直な意見や論理的な思考が阻害されないよう、十分な配慮がなされなければならない。また、本講のねらいは論理的な思考をとおして「情報」の「本質」を知ることであり、それを情報モラルとして自分の生活にいかしていく実践力を身につけることである。したがって、携帯電話の所持禁止をはじめとするルールそのものに対する是非を論じるものではない点に留意すべきである。授業では、いくつかの発問を軸にしながら、資料を読み込み、論理的に思考し、自分の考えをまとめ、表明（討論）する機会をもちながら、それを補う形で講義を進めたい。

(5) 情報モラル教育の視点から

「情報技術」「情報機器」「コミュニケーションの態様」が高度になればなるほど、それを扱う者にも高い知識・技術・モラルが要求されるという点が本講の要点である（下記（6）とリンクする）。

(6) 人権教育の視点

技術的にますます高度化する「情報」「情報技術」「情報機器」の性質を知らないまま使うことで、知らないうちに自分や他人の権利を奪う恐れがあることを理解させる必要がある（上記（5）とリンクする）。

(7) 指導計画

- 事前・・・アンケートを実施：「携帯電話の所持・使用についてのルールはどうあるべきか」：4つの選択肢を用意し、理由を含めてごく簡単に（直感で）答えてもらう。
- 授業では、アンケートの結果を最初の材料にして議論を進める。

3 本時の学習 (1 / 1 時間)

(1) ねらい

情報化の進行にともなって身の回りにあふれるようになったさまざまな情報技術・機器や情報そのものの性質を学び、高度情報社会の光の部分と影の部分を理解させる。そのことをとおして、これらの情報技術を将来にわたって正しく扱い、また情報を正しく受け取り、解釈し、発信できるよう、情報モラルの実践力を高めることをねらいとする。

(2) 展開

過程	学習活動及び主な発問	予想される反応	指導上の留意点
導入 10分	<p>○この時間のテーマを提示「高度情報社会の性質＝利点・欠点を知り、情報を正しく使いこなし、上手につきあっていこう」</p> <p>○20年前と現在の情報環境を比較→情報化による利点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いつでも・どこでも・誰でも」＝ユビキタス ・情報の量・質・源・速さの充実 ・買物のスタイルの変化（家に居ながらにして） ・流通の変化（POS・電子商取引） ・携帯電話普及率90.4%（県内高校生88.7%） ・ネット普及率76.8% 	<ul style="list-style-type: none"> ・しばらく考える時間をおく ・固定電話→携帯電話 ・郵便→メール ・ネットの普及 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報ツールだけでなく、それによる社会の変化や、流通システムの変化など目に見えない情報化の利点に目を向けさせる
展開 30分	<p>○なぜ、これだけの利便性をもつ情報化が問題視されるのか？</p> <p>○事前アンケートの結果を提示＝学校における携帯電話の扱い方の望ましいルールは？</p> <p>○数人に選んだ理由を尋ねる</p> <p>○では、具体的な事例から、便利な情報機器が人間にどのような影響を与えるかを考えてみよう</p> <p>①自分たちだけの世界にいる錯覚を起し、周りに気づき</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・肯定的・否定的，両面から回答が出ることを期待 ・資料を読み込む ・自分の考えを数人に答えてもらう ・左の内容を解説し、それをワークシートに書き込む 	<ul style="list-style-type: none"> ・この時間の中心的な問いである ・結果を復唱して内容を把握させる ・自由に回答できるように配慮 ・資料＝ニュース記事，いじめアンケート，警察庁資料 ・自由な意見が出るように配慮

	<p>にくくなる→軽率な書き込み，個人情報流出，マナー違反</p> <p>②必要なものがすぐに手に入る→誘惑への耐性を失う，待つことができない，考えることをしなくなる→善悪の判断を鈍らせる，情報の信ぴょう性を判断しにくくなる</p> <p>③依存性→生活の乱れ，マナー違反（酒・たばこ・薬と同様の効果）</p> <p>○一方，情報のもつ性質とは？</p> <p>①その場・そのときだけでは真偽を判断できない情報がたくさんある→なりすまし</p> <p>②情報は永久コピーが可能→軽率な発言，虚偽の情報も世界中に広がる</p>	<p>・資料を読み込む</p> <p>・自分の考えを数人に答えてもらう</p> <p>・左の内容を解説し，それをワークシートに書き込む</p>	<p>・資料＝ニュース記事</p>
<p>終末 10 分</p>	<p>○情報技術が高度になるほど，それを使いこなす人間にも高い知識・技術・モラルが求められる</p> <p>○情報機器の扱い方には，人間の生き方や価値観が問われている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・悪事に用いるのか ・正しく使って得をするのか ・知らずにだまされるのか ・知らずに迷惑をかけるのか <p>○最後に，情報・情報機器とのつきあい方について意見文を書く</p>	<p>・ワークシートに書き込む</p>	<p>・学校における指導に結びつけて考えさせる</p>